

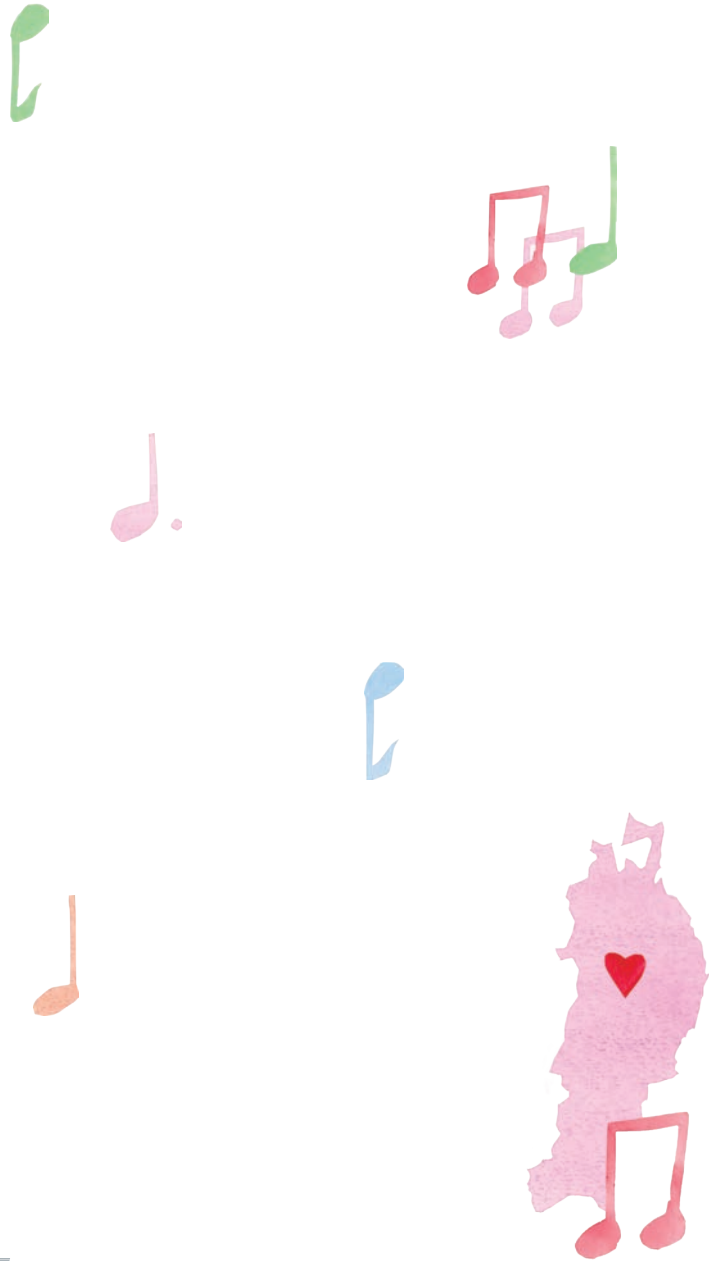
一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会

A.C.P.C. **navi**

©2024 A.C.P.C.

All Japan Concert & Live Entertainment Promoters Conference

AUTUMN 2024 VOL.53



中西健夫 ACPC会長 連載対談 第37回ゲスト 村松俊亮 日本レコード協会会長
伊神悟 ACPC副会長 連載「伊神が行く!」第2回 東北



表紙の言葉

前号より連載「伊神が行く!」がスタートしました。北海道に続いて、伊神悟 ACPC 副会長が訪れた地は東北です。伊神副会長を囲んで、地元のコンサートプロモーターの皆さんが語った「青森ねぶた祭」や「秋田竿燈まつり」といった全国的にも知られるお祭り、「山寺(宝珠山立石寺)」「中尊寺金色堂」「大内宿」「定禅寺通」などの名所・旧跡を、小池アミゴさんが一枚の絵で表現してくださった作品が今号の表紙になりました。

小池アミゴさんは、2011年3月11日以降、東北各地を巡り、絵を制作し、ボランティア活動にも従事しました。2012年から個展「東日本」を日本各地で開催しています。東北の人々と交流しながら、絵を描き続けているアミゴさんが、ACPCのためにこの作品を描き下ろしてくださったことに大きな意味を感じます。

淡い色彩から音楽が伝わってくるような表紙を、連載「伊神が行く!」と併せてご覧いただければと思います。



イラストレーション：小池アミゴ



- 4 VOL.53 刊行のご挨拶 中西健夫 ACPC 会長
- 5 中西健夫会長連載対談
第37回 ゲスト 村松俊亮(一般社団法人日本レコード協会会長)
- 10 MUSIC AWARDS JAPAN 開催概要発表
- 14 連載 伊神が行く! HOMETOWN ENT.NIGHT & DAY
伊神悟 ACPC 副会長 第2回 = 東北
- 20 令和6年度 ACPC 海外研修実施
- 22 韓国MCIACとの間で、協力関係の構築に向けたMOUを締結
- 24 ECSA Lounge
- 26 フリーランス新法、2024年11月1日より施行
- 27 連載コラム
「帰ってきた TALKING BLUES」
鏡 孝彦 (ACPC 専務理事)
- 28 navi ARENA



9月の能登豪雨により、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

復興に向けて動かなかでの豪雨災害に、とても心が痛みました。本会では令和6年能登半島地震の支援として募金活動を実施しておりますが、今後も継続し、音楽を通じた復興支援について我々にできることを実践していきたいと思っています。

地震や風水害など、年々増加・深刻化する自然災害への向き合い方を改めて考える時がきています。今夏も自然災害や極端な天候の影響を受けた公演が多くありました。

地球環境が刻一刻と変化する中で「何が正しいのか?」と判断に迷うことも増えていると思います。野外フェス等のあり方を見直すことも必要になってくるでしょう。全国組織であるACPCの強みを活かし、各地の情報を収集しながら協議をしていきます。

さて、今号のA.C.P.C.naviでは、日本レコード協会会長の村松俊亮様を対談ゲストにお招きし、来年5月に開催される「MUSIC AWARDS JAPAN」立ち上げのきっかけや想い、音楽業界の未来などについてお話しさせていただきました。

また、5年ぶりに実施したACPC海外研修の様子を報告しています。私も参加し、タイ・バンコクにて開催された「SUMMER SONIC Bangkok 2024」を視察しました。日本が育んできた音楽・ライブ、そしてフェスの魅力を世界に広め、他国の文化に触れて学びを得る。今後の可能性を感じる良い機会となりました。

時代とともに人々の音楽との付き合い方も変化しています。日本の音楽やライブが評価されてきている一方で、国内では音楽無関心層が増えている現状や直面する様々な課題もあります。引き続き、課題解決に向けて取り組みながら、素晴らしい音楽を届け続ける方法を会員社・関係者の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

これからも、本誌が日本のライブ・エンタテインメント業界の交流や協力のきっかけになることを願い、第53号をお届けします。



一般社団法人コンサートプロモーターズ協会
会長 中西健夫

MUSIC AWARDS JAPANは「まずは、やる。そして育てる」
音楽5団体の団結のもと、来年5月に開催されます



村松俊亮
Shunsuke Muramatsu
一般社団法人日本レコード協会会長
株式会社ソニー・ミュージック
エンタテインメント代表取締役社長 CEO

中西健夫
Takeo Nakamishi
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会会長
株式会社ディスクガレージ取締役会長



トップダウンではなく、
ボトムアップでしか成功しないアワードです。

村松俊亮

日本レコード協会会長

音楽5団体（日本レコード協会、日本音楽事業者協会、日本音楽制作者連盟、日本音楽出版社協会、ACPC）の連携が日増しに深く、強くなっています。MUSIC AWARDS JAPAN（10ページより開催概要を掲載）の来年2025年5月開催へ向けて、急ピッチで動き出しています。このアワードをなぜ開催するべきなのか、そして音楽産業に携わる人々とアーティストが何を目指して団結し、動き出したのか——日本レコード協会の村松俊亮会長とACPCの中西健夫会長が語り合いました。

全員が「言い出しっぺ」

中西 最近では音楽5団体が集まるようになって、村松さんとお話する機会も増えました。MUSIC AWARDS JAPANの開催へ向けて、頻繁にお会いしています。

村松 だいぶ密になってきましたね。

中西 昨日、今日だけで3回もご一緒していますから（笑）。今日は改めてMUSIC AWARDS JAPANのお話ができればと思います。日本は長い間、大きな音楽マーケットを持ちながら、極端にドメスティックな市場だと言われてきましたが、コロナ禍を経て大きく変わってきました。国内だ

けではなく、世界を目指す日本のアーティストが何組も出てきて、実際に成果も挙がってきています。僕は8年くらい前にアメリカのグラミー賞を現地で初めて観たのですが、当時から日本でもこんなアワードができればいいなと思っていて、小林武史さんはじめ、プロデューサーの方々と色々相談はしていたのですが、今こそまさにそのタイミングじゃないかと思っています。業界側が主導する、本当の意味でフェアなアワードにして、世界に発信するべきだと考えていたら、音楽5団体の皆さんも、実は同じような発想をお持ちで、MUSIC AWARDS JAPANの構想が具体化していったという感じですね。

村松 今では関わっている皆さんはそれぞれ、自分が言い出しっぺだと思っているくらいですし、僕自身もそうです。中西さんがおっしゃった通り、世界の音楽の聴き方がストリーミングに置き換わり、フィジカルが中心であった時代とは様相がガラリと変わりました。アーティスト達がつくった楽曲やミュージック・ビデオが、世界中に一瞬にして届く時代になりました。弊社の例だとCreepy Nutsの「Bling-Bang-Bang-Born」は、『マッシュル -MASHLE-』



本当の意味でフェアな、
世界に発信するアワードにしたいと思います。

中西健夫

コンサートプロモーターズ協会会長

（第2期）というアニメ作品のオープニング・テーマなのですが、今年1月中旬にアニメのオープニング映像とフル尺じゃない楽曲をYouTubeにアップしたところ、10日間くらいで世界中を席卷したんです。南米、北米、アジア、ヨーロッパ、そしてロシアまで。僕自身もすごく驚きまして、やり方を間違えず、クオリティさえしっかりしていれば、ここまでのスピード感を持って、自分達のクリエイティブが世界へ届くことを体験しました。日本の音楽マーケットがガラパゴスだったことも事実ですが、現在は日本の音楽の素晴らしさ、面白さが世界に評価され始めていると思います。Creepy Nutsだけではなく、弊社で言えばYOASOBIもそうですし、藤井風さんや新しい学校のリーダーズなど、様々なタイプのアーティストから火がつき始めています。

中西 機が熟した感じがしますよね。MUSIC AWARDS JAPANの構想も8年前に発表していたら、リアリティが伝わらなかったかもしれない。今年は『SHOGUN 将軍』が、日本語の台詞中心の時代劇だったにもかかわらず、エミー賞を受賞しました。エンタメの世界では日本語で勝負はできな

いと言われ続けていましたが、風向きが変わってきたことを実感した出来事でした。

音楽特有の価値

村松 日本レコード協会の会長という立場からレコ協が毎年実施しているユーザー調査をベースにお話すると、日本にはゲームやアニメなどたくさんのコンテンツがあり、チャンスも広がっている中で、音楽に対する無関心層が増えているんですね。そのデータを踏まえた上で、音楽コンテンツの価値を改めて高めていきたいと強く思っています。海外への発信だけではなく、国内の需要も喚起したいし、若者に音楽の素晴らしさを知ってもらいたい。自分達の青春時代を思い返すと、あらゆるシーンに音楽は流れていました。音楽は他のコンテンツと違う面があって、同じ映画や小説を10回以上繰り返し楽しむ人は少ないですが、音楽は同じ曲を100回、1000回と聴く人がいくらでもいるじゃないですか。そう考えると自分達の生活を演出する音楽というコンテンツの素晴らしさが分かると思うんです。MUSIC AWARDS JAPANでも、そういった音楽特有の価値を伝えていきたいですね。

中西 MUSIC AWARDS JAPAN の構想が動き出したのは、都倉俊一文化庁長官の存在も大きいですね。作曲家でもある都倉長官が、初めて我々のポピュラー・ミュージックの業界から長官に就任されて、音楽5団体のメンバーもお話しさせていただく機会が増えましたが、「これはやるべきだ。いや、やらねばならない」くらい前向きに応援してくださっています。文化庁が京都に移転したこともあり、開催地が京都に決まり、本当に国を挙げてやっていくような形が見えてきました。

新しく。そして頼もしく

村松 アワードの模様は地上波での放送を予定しています。世界へ届けるためにグローバル・プラットフォームでの配信も実施する予定です。観ていただく方のために非常に斬新な演出であるべきだと考えています。アワードといっても、形式ばったものにするつもりはありませんが、一方で登場するアーティスト達と日本の音楽界が世界から見ても頼もしく思えるくらいものになりたいと思っています。

中西 日本の音楽をずっと支えてきてくれたアーティスト達に対しても、どのような形でリスペクトを捧げるべきかは検討中です。またアーティストだけではなく、音楽界に貢献してくれたスタッフも対象に加えられたら良いなと考えています。グラミー賞で一番感銘を受けたのは、まさにその部分でした。それとライブ、コンサートについても、何かしらの形でアワードに加えたいと思っています。グラミー賞が我々のモデルケースになっているのは事実ですが、第1回目から60年を超える歴史があるグラミーと同じようにはできないですから、

あまり詰め込みすぎないようにと気をつけています。

村松 まずはやってみようというところからのスタートですね。これまでの日本におけるアワードは、メディアが主体になっている場合が多かったのですが、MUSIC AWARDS JAPAN はアーティスト自身や業界当事者からリスペクトされているアーティスト、実績を残した作品を表彰することが主眼です。そこがグラミー賞との共通点ですね。我々の業界のために、ハンドメイドというかホームメイドで開催するアワードが、今まで日本になかったのが不思議なくらいとも言えますが、だからこそ使命感を持ってやらなくてはいけないという意識があります。基本のスタンスは「まずは、やる。そして時間をかけて育てる」ですね。

産業としての成長と法整備

村松 僕は経団連（日本経済団体連合会）でクリエイティブエコノミー委員会の委員長を務めていたり、コンテンツ産業官民協議会にも委員参加していますが、音楽をはじめとした日本のコンテンツがどれだけ世界で認められているか、世界の人々を熱狂させているかを伝え、エンタテインメントを国の基幹産業とするべきだと訴えています。アニメとアーティストをセットにしてアジア、北米をツアーで回ることも可能だと思いますし、最初はなかなかマネタイズできなくても、国のサポートがあれば、まず現地の人にライブ体験を通じて日本の音楽を認知してもらい、バズを広げていく流れをつくれる。やはり生で日本のアーティストを体験してもらうのが、一番説得力もあるんじゃないでしょうか。

中西 他の産業を含めた話になると、音楽業界の人達は遠い話だと考えがちだと思いますが、村松さんが尽力されていることは、リアルに今やらなきゃいけない課題ですね。韓国はすでにコンテンツ産業の年間利益が家電や自動車よりも上にいっていますが、日本でも音楽やドラマ、映画で世界的な大ヒットが一つ生まれたら様変わりすると思うんですよ。

村松 経団連や経済産業省と連携しながらやるものは当然、経済の話なので経済効率性、要するにお金が儲かるエンタテインメント・コンテンツ、世界からマネタイズできるものに特化してプランニングしていかなくてはいいんです。現状ではゲーム、アニメ、マンガ・出版、実写（映画・ドラマ）、音楽、この5つを支援していきましようと言っています。データの裏付けもしっかり提出していて、エンタメは半導体や鉄鋼の分野と売上は同規模で、自動車産業に次ぐくらいの産業になっているんですよ。しかも伸び代が大いにあるところで、我々民間のほうからどんどんアピールしていきたいと思っています。

それともう一つ、海外で日本の音楽が聴かれるようになったことに合わせて、法整備も進めていかなければいけないと考えています。我々日本レコード協会は10数年来、著作隣接権者（レコード製作者・実演家）がレコード演奏・伝達権を獲得できるように活動してきました。例えば、店舗や商業施設など街頭でCDや配信楽曲を再生しても、著作隣接権者は対価の還元を受けることができないんです。日本で著作隣接権者に対するレコード演奏・伝達権が立法化されていない以上、海外の店舗・商業施設でどんなに日本の音楽が使われても権利

収入につながらないんですよ。レコード演奏・伝達権はラジオ人気が根強い北米以外、世界142ヶ国で導入されていて、中国や韓国、シンガポールでも成立しているにもかかわらず。世界の国々からも日本での導入を要請する声が高まっているんです。

中西 ライブ・エンタテインメント業界では、チケットの高額転売問題の時に新法を成立させるまで大変な苦労があり、関係各所のご協力をいただきましたが、現実には起きていることと法の整備が乖離してしまうのは本当に良くないですよ。今日はお忙しいところありがとうございました。



PROFILE

村松 俊亮

むらまつ・しゅんすけ

1963年生まれ。87年、CBS・ソニーグループ（現ソニー・ミュージックエンタテインメント）入社。2002年、ソニー・ミュージックレコーズ代表取締役執行役員専務、2005年、同執行役員社長、2013年、ソニー・ミュージックエンタテインメントコーポレート・エグゼクティブレーベルビジネスグループ代表、2019年、同社代表取締役社長COOなどを歴任。2020年より現職。現在、ソニーグループ上席事業役員 音楽事業担当（国内）も兼任。日本レコード協会では2015年より理事、2016年より副会長、2021年に会長就任。現職は他にソニー音楽財団評議員、日本経済団体連合会クリエイティブエコノミー委員長、コンテンツ産業官民協議会委員など。

※本誌に掲載された座談会はダイジェスト版です。完全版はACPCホームページをご覧ください。



MUSIC AWARDS JAPAN 開催概要発表

音楽5団体の連携による、世界と次代に向けた新しい取組みが始動します

昨年12月、日本レコード協会、日本音楽事業者協会、日本音楽制作者連盟、日本音楽出版社協会、コンサートプロモーターズ協会の5団体は日本の音楽文化を世界に発信し、各国音楽産業と連携交流を強化するとともに、国内音楽需要をさらに高め持続的な成長を図るべく「一般社団法人カルチャーアンドエンタテインメント産業振興会(CEIPA)」を設立しました。その一つの手段として、世界へ発信する国内最大

規模の音楽賞「MUSIC AWARDS JAPAN」を新設し、2025年5月に京都で授賞式を開催するべく準備を進めておりますところですが、いよいよ先ごろ、以下にて情報解禁(第一弾)を行いました。これをスタートラインとして来年2025年5月の授賞式に向けて、続々と情報を発信してまいります。この新しい取組みを業界あげて推進してまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



アーティストを中心とした音楽関係者、総勢5,000人以上が投票メンバーに
「MUSIC AWARDS JAPAN」新設
 音楽人5000人が選ぶ、国際音楽賞。 2025年5月に京都で主要6部門をはじめ60以上の部門を表彰する授賞式を開催

一般社団法人カルチャーアンドエンタテインメント産業振興会(会長:依田 巽、理事長:村松 俊亮、以下:CEIPA)は、国内の音楽業界における主要5団体(日本レコード協会、日本音楽事業者協会、日本音楽制作者連盟、日本音楽出版社協会、コンサートプロモーターズ協会)が垣根を越え、国内最大規模の国際音楽賞「MUSIC AWARDS JAPAN」を新設し、2025年5月に京都で授賞式を開催することをお知らせします。

本アワード開催の目的・背景

昨今のストリーミングサービスの拡大により、音楽業界も海外とボーダレスに繋がり、グローバル規模での音楽活動が広がっています。日本をはじめアジアの音楽を世界へ発信し、環太平洋地域を中心にグローバルにつながる。日本の音楽をグローバルに誇れるカルチャーにすると共に、海外アーティストの日本市場への進出を促進する。日本の音楽業界主要5団体が垣根を越え、世界の音楽業界と連携し、「世界とつながり、音楽の未来を灯す。」をコンセプトとした「MUSIC AWARDS JAPAN」の新設に至りました。2025年5月に京都で開催される授賞式では、様々なアーティストのステージパフォーマンスや、国内外の音楽業界関係者によるセミナーやショーケースの開催も予定しています。

「MUSIC AWARDS JAPAN 2025 KYOTO」開催概要

開催日時: 2025年5月22日(木)
 ※開催ウィーク: 2025年5月17日(土)~5月23日(金)
 会場: ロームシアター京都
 放送: 地上波放送局にて生放送を予定
 配信: YouTubeにて全世界配信予定 ※一部地域を除く
 公式サイト: <https://www.ceipa.net/feature/maj>
 公式SNS: https://x.com/MAJ_official_x
 協力: 文化庁
 経済産業省(調整中)



※画像はイメージです

※本授賞式は一般チケット販売の予定はございません。授賞式及び関連イベントの詳細につきましては、別途ご案内申し上げます。

表彰部門

本アワードでは最優秀楽曲賞、最優秀アーティスト賞など主要6部門をはじめ、60以上の部門を創設いたします。J-POP、ヒップホップ、アイドルカルチャーなどのジャンル別カテゴリー、ダンスパフォーマンス、ミュージックビデオ、ボーカロイドカルチャー、DJなどのスペシャルカテゴリー、アジア各国、ヨーロッパなど地域別のグローバルカテゴリーといった多様なカテゴリーを創設する予定です。時代の変化とともにバラエティ豊かになる音楽カルチャーを讃え、音楽の未来を灯してまいります。

MUSIC AWARDS JAPAN

主要6部門

Song of the year	Album of the year	Artist of the year	New Artist of the year	Top Global Hit from Japan	Best Song Asia
最優秀楽曲賞	最優秀アルバム賞	最優秀アーティスト賞	最優秀ニュー・アーティスト賞	Top Global Hit from Japan 世界でヒットしている国内楽曲を対象とした賞(国内楽曲が対象)	最優秀アジア楽曲賞 アジアでヒットしている楽曲を対象とした賞(対象国・地域の楽曲が対象)

60以上の部門・カテゴリーを設置

音楽ジャンル別カテゴリー J-Pop、ロック、ヒップホップ、アイドルカルチャー、演歌・歌謡曲、リバイバルなど	スペシャルカテゴリー ダンスパフォーマンス、ミュージックビデオ、ボーカロイドカルチャー、DJなど
グローバルカテゴリー アジア各国、ヨーロッパ、北米、南米など	各種特別賞 ローリングスター特別賞など

※部門数及び部門名称は変更の可能性がございます。

対象作品: 2024年2月~2025年1月に話題となった作品およびアーティスト(リリース時期は不問、旧譜も対象)

表彰部門: 主要6部門をはじめ60以上の部門を設置予定

主要6部門: 最優秀楽曲賞 / 最優秀アルバム賞 / 最優秀アーティスト賞 / 最優秀ニュー・アーティスト賞 / Top Global Hit from Japan / 最優秀アジア楽曲賞

投票の流れ、および投票メンバー

エントリー作品はビルボードジャパン、オリコン、GfK/NIQ Japan 他主要データと連携した客観指標にて、自動選出。その後、国内投票メンバーにより5作品のノミネート作品を選出、ノミネート作品の中からさらに国内・海外投票メンバーの厳正な投票により受賞作品を決定いたします。

投票メンバーには、アーティスト、クリエイター、マネージャー、レコード会社スタッフ、エンジニア、MVディレクター、コンサートプロモーター、音楽出版社、著作権管理団体・事業者、音楽配信事業者、ディーラー、ディストリビューター、音楽評論家、ライター、メディア、海外音楽賞審査員、海外クリエイター、海外プロモーター、海外音楽配信事業者など、各分野より構成される5,000名以上の音楽業界のプロフェッショナルを選出いたします。

また、音楽を愛する多くの方に参加していただくべく、一般の音楽リスナーによる投票を募る部門も創設予定です。

※一部、別の選考方法による部門もございます。

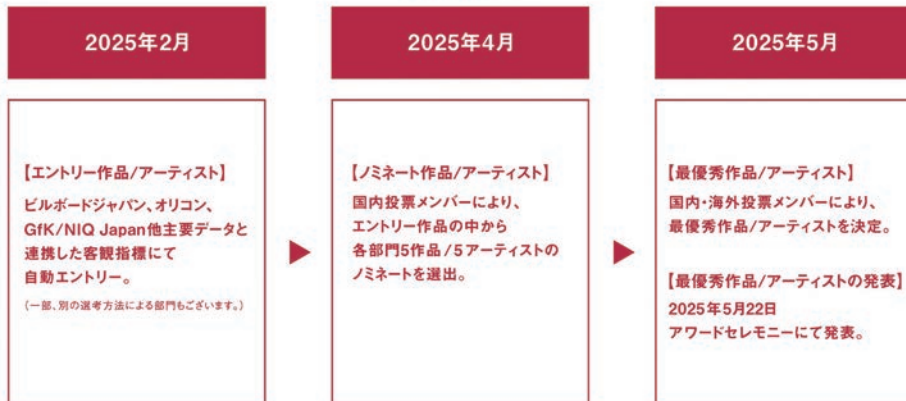
※オリコン他のデータは、投票メンバーにおけるアーティスト、クリエイターの選定にも活用しております。

※投票メンバーになっていただく方に向けた説明会の開催を別途予定しております。

MUSIC AWARDS JAPAN

MUSIC AWARDS JAPAN

投票の流れ



※投票スケジュールは変更の可能性がございます。

CEIPAについて



名称：一般社団法人 カルチャーアンドエンタテインメント産業振興会 (CEIPA)

会長：依田 巽

理事長：村松俊亮 (日本レコード協会 会長)

副理事長：中西健夫 (コンサートプロモーターズ協会 会長)

専務理事：栗田秀一 (日本音楽出版社協会 副会長)

理事：瀧藤雅朝 (日本音楽事業者協会 会長)

野村達矢 (日本音楽制作者連盟 理事長)

稲葉 豊 (日本音楽出版社協会 会長)

正会員：一般社団法人 日本音楽事業者協会

一般社団法人 日本音楽制作者連盟

一般社団法人 日本音楽出版社協会

一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会

一般社団法人 日本レコード協会



※画像はイメージです



※画像はイメージです

ライブ・エンターテインメント EXPO でも MUSIC AWARDS JAPAN をテーマにしたカンファレンスが行われました。

2024年7月4日 東京ビッグサイト

日本エンターテインメントの新たな挑戦と未来
日本から世界へー 2025年新音楽アワード発足
“MUSIC AWARDS JAPAN” その狙いと未来



(写真左より) 野村達矢 日本音楽制作者連盟理事長 村松俊亮 日本レコード協会会長 中西健夫 ACPC 会長



伊神が行く!

全国へ行く
地元で語る
Vol.2 東北編

HOMETOWN ENT. NIGHT & DAY



撮影：小山昭人(FACE) ※17ページ下部は除く

自身も東海地区のコンサートプロモーターである伊神悟ACPC副会長が、全国会員社の皆さんのもとに馳せ参じる連載「伊神が行く!」。お伺いする各エリアのライブ・エンタテインメントをともに考え、時には未来を熱く語り、時には愚痴をこぼし合いながら交流していきます。第2回のエリアは「東北」。菅真良理事(ジー・アイ・ピー)のご尽力もあり、エドワードライブエンターテインメント、キョードー東北、ジー・アイ・ピー、ノースロード・ミュージックの4社、計15名が一堂に会し、伊神副会長を迎え入れてくださいました。東北は全国的に有名なお祭りが各県で開催

され、自然豊かな絶景が満喫できる観光地が豊富。名物・名産・銘酒も数多く、東京からのアクセスが便利なことでも知られています。以上のように恵まれたエリアである一方で、2011年に東日本大震災が発生。近年は全国的に自然災害によるコンサートへの影響が大きくなっていますが、東北は粘り強く、あきらめない心を携えて、復興への道程を力強く歩み続けている土地でもあります。そんな東北の魅力を地元のコンサートプロモーターがプレゼンテーション。より東北のライブ・エンタテインメントを盛り上げていく術を探ります。

エドワードライブエンターテインメント



(左から) 鎌田峻平 副社長 / 門日彩香 / 佐藤汐里



被災地から伝わる勇気

東北は関東に比べれば会場の規模も小さく、近距離でライブを楽しめることもあり、他地域からも足を運んでいただきたいと思っています。実際に遠征して下さるお客さんも多いですね。その際は、ぜひ東日本大震災の被災地に行って、絶対に復興できると信じて日々暮らしている地元の人のパワーを感じてほしいです。震災が起きたのは13年前で、当時のことを知らない若い人もいます。今、各地の集中豪雨で心が折れてしまいそうな方がいらっしゃると思いますが、そんな方にも、人はいつか必ず立ち直ることができることをしっかり感じてもらえると嬉しいです。そしてエンタテインメントが、その助けになると思います。(鎌田)

東北は独自のお祭りが数多くあり、桜や紅葉の時期ではライブの日程と重なることもあるため、ライブを楽しむだけでなく文化にも触れやすい点が魅力です。一方で仙台七夕まつりの時など、日程ができるだけ

被らないようにすることもあります。個人的には、山形県かみのやま温泉「日本の宿古窯(こよう)」がお勧め。宿泊客の気持ちをくみ取ったおもてなしをしてくれます。(佐藤)

私は東北を巡るのが好きで、行ったことのない秋田と青森以外で記憶に残っている場所を挙げると……宮城では秋に白鳥がたくさん来る「伊豆沼」、はすまつりが有名な「内沼」、海に突き出した細い道が映えスポットの「松島・馬の背」、石臼でコーヒー豆を挽く体験ができる「秋保(あきう)藁の家」、秋保の温泉街に向かう途中のジェラート屋さん「KOMOREBI gelato」。山形では、クラゲがたくさんいる「加茂水族館」、わらび餅が絶品の「腰掛庵」。岩手では、(団子が空中から竹籠で運ばれてくる)空飛ぶ団子が名物の「巖美溪・郭公屋」、舟下りで絶景を楽しめる「狛鼻溪」。福島では、鍾乳洞の「あぶくま洞」、茅葺き屋根の古民家が並ぶ「大内宿」、かき氷の「ピーチマンカフェ」がお勧めです。(門目)

伊神のひと言

鎌田さんが話してくれた被災地のことは、僕も心から共感します。「あきらめない気持ち」、本当に大事ですよ。東北地方に素晴らしいお祭りが多いのも確かです。桜の季節のお祭りなどはライブとのコラボも考えられると思いますが、一方で地元の人はお祭りを全力で楽しむので、ライブどころではなくなってしまう面もあります。そこが難しい。





(左から) 椎俊輔 講師 / 相澤大輔 講師 / 田澤真希子 / 金田将紀 / 村上友希

お祭りとライブに現れる個性

東北のライブは独特の盛り上がり方があり、地方公演にしかないプレミアム感が出ます。アーティストからも「東北っていいよね」とよく言われます。リアクションが大きい、反応がいいと。ツアーで毎回は東北に来ることのできないアーティストもいらっちゃって、数年に1回の公演を待ちわびている気持ちが爆発するのだと思います。アーティストもその気持ちに応えてくれて、アンコールが1曲追加になることもありますから。他地域の方は、ぜひ東北6県に行っていたら、各地の楽しさを見つけてもらいたいですね。それと東北の魅力は日本酒だと思います。僕もともと日本酒が全く飲めなかったのですが秋田の「No.6」というお酒を飲んで美味しさを知りました。(相澤)

東北の人は物静かなイメージがありますが、ライブでの盛り上がりがすごい、そのギャップが魅力です。とにかく食べ物美味しいので、色々な飲食店に行って、方言

伊神のひと言

ライブでのお客さんの反応に地域性が出るという話は興味深いですね。僕の担当エリアでいえば、名古屋と比べて静岡は公演本数も限られていて、ライブへの向き合い方が純粹。すごく素直でピュアにライブを楽しんでいる感じがします。

を含めた人の温かさを体感してほしいです。(田澤)

東北は県ごとの個性が強いと思います。ライブを観ていると、最初から盛り上がる県もあれば、じっくりと盛り上がる場所もある。例えば昨年、東京スカパラダイスオーケストラが岩手県の矢巾町で公演を行ったのですが、一番後ろのお客さんまで最初から手を上げて盛り上がっていました。他県だと途中から上がっていくんですけど。個人的なお勧めスポットは「青森魚菜センター」。チケット制で各市場のお魚をもらって、お好みの「のっけ丼」がしてくれる。青森では必ず食べます。(金田)

県ごとに特色があることについては同意見です。私は岩手県の出身で、この仕事に就くまで東北の他県に行ったことがなかったのですが、青森県青森市の「青森ねぶた祭」に初めて行って、岩手県盛岡市の「盛岡さんさ踊り」とは違う盛り上がりに驚きました。盛岡では最近ライブの開催が多いので、「中尊寺金色堂」には立ち寄ってほしいと思います。(村上)



(左から) 菅真良 講師 / 福島梢 / 佐藤亜弥 / 相馬花菜

豊かな自然を日々楽しめる街

私は個人的に一人の観客としてライブに行くことが多いのですが、東北はどちらかといえば徐々に盛り上がる会場が他の地域に比べて多いかと、なんとなく肌で感じたことがあります。コール&レスポンスで最初から大きい声が出てないこともあります。一方で他地域に比べてヤジが少なかったり、静かに楽しむお客さんが多かったりする。ライブ初心者の方が溶け込みやすい面があると思います。

東北の魅力は日常で自然を感じられることじゃないでしょうか。仙台の「定禅寺通」は「杜の都仙台」という言葉を象徴するような、木々が立ち並ぶ素敵な景色で、歩くだけで自然を満喫できます。車道と車道のあいだに人が通れる歩道ができていて、その通りに市民会館や県民会館があるので、ライブへの導線としては立ち寄りやすいと思いま

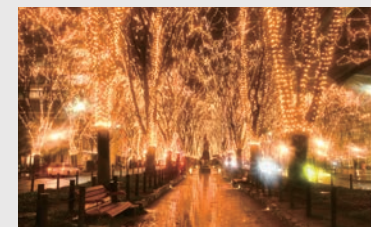
伊神のひと言

仙台と名古屋、新潟、長野は東京都との距離がちょうど360キロくらいで、ほぼ同じなのに、不思議なことにライブで東京から足を運ぶ人達は仙台に向かっている気がします。それだけライブが楽しやすくて、魅力的な街だということでしょう。仙台市街だけではなく、近郊にも人気のある観光地が揃っていることも大きい。さらに東北6県には、青森ねぶた祭、弘前ねぶたまつり、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつりと全国的に有名なお祭りが揃っている。ライブに行く時にセットで楽しめる。ポテンシャルが高いですよ。

す。通りに面して「勾当台公園」という地域のイベントが開催される公園もあります。今年の6月には「全国餃子まつり in 仙台」というイベントをやっていました。奥まで進むと桜のきれいな「西公園」があって、春にはお花見、冬は「SENDAI 光のページェント」も開催されるので、四季折々の自然が楽しめるエリアだと思います。(相馬)

仙台は東京からでも日帰りできる場所が何より便利ですよ。ライブでも関東からのお客さんがすごく多いです。他地域から見ると、アクセスしやすいことはポイントが高いと思います。

お勧めの観光スポットは「秋保(あきう)温泉」です。仙台駅から30~40分くらい車を走らせればすぐに行ける場所で、良い温泉旅館・ホテルがたくさんあります。仙台という街は1時間もかからずに自然が豊かな山にも行けるし、海にも行けるし、温泉にも行けるんですよ。(福島)



SENDAI 光のページェント
写真提供：SENDAI 光のページェント実行委員会

ノースロード・ミュージック



(左から) 後藤隆美／長澤静香／堀川誠士



東北を知るための大事な場所

東北に来ていただくお客さんの行程を考えると、東京から日帰りできることは大きな武器になりますよね。とはいえ観光面を考えるとできれば1泊していただきたい。1泊するなら美味しいものを食べて、楽しんで帰ってほしいと思います。青森なら中華料理「王味」。ラーメンも餃子もうまいです。秋田は居酒屋「ちゃわん屋」。観光地では「五所川原立佞武多の館」。青森県五所川原市では「ねぶた」を「佞武多」と表記するのですが、この館には25メートルくらいの佞武多が置かれていて、お祭りの日はここからガンダムのようにウィーンと発進します。動いている姿はとにかく大迫力です。日本三景に入っている宮城県の「松島」、山形県の「山寺（宝珠山立石寺）」は、素晴らしい絶景が楽しめます。山寺は夏だと緑が広がり、紅葉の季節はさらに美しく感じます。(後藤)

私は秋田県出身なので、地元の話させ

伊神のひと言

復興して整備された場所と、奇跡の一本松のような震災の記憶を伝える場所。両方とも東北なのだと思います。

ていただきます。秋田駅の徒歩圏内には、「竿燈まつり」の体験ができる「秋田市民俗芸能伝承館」があります。「竿燈まつり」とは稲穂に見立てて竿に提灯を吊るして、それを片手で持ち上げるお祭りです。秋田犬に会える「秋田犬ステーション」もあり、また今年の7月には「千秋公園」のお堀に遊歩道が新設され、蓮の花を鑑賞できるようになりました。いずれも会館・ライブハウスからも近く、ライブの前に短時間でも楽しむことができます。(長澤)

震災での津波の後、風除けの松が立っているところで唯一残った「奇跡の一本松」を見てもらいたいですね。この松はもう枯れているのですが、特殊な技術でモニュメントとして保存されていて、津波の爪痕を伝え続けているんです。近くには海沿いのライブハウスがあって、ツアーで来たバンドのメンバーをこの場所に連れて行ったこともあります。震災時に僕は中学の卒業式を迎えたので、色々思い出すことも多いです。東北を知ってもらうために行ってほしい場所ですね。(堀川)



アフタートーク& 打ち上げ

各社参加で東北の魅力・東北のライブの特色を語り合った後は、伊神副会長のリードでフリートークへと移行。まずは東北全体を盛り上げていくために、行政との連携がテーマに掲げられました。

エドワード 鎌田 仙台は市営の公園が条例上、営利目的で使えなかったり、使える場合でも催事を何年か継続しないとその先は使えないといった制限が多いんです。現状では仙台市内で大きな音が出せて、野外フェスに見合うような会場はないと思います。キョードー東北 椎 確かに仙台市内の公営の場所を使ったイベントは、実現へのハードルが高いです。岩手や福島、秋田でも行政からの協力がなく、今後のイベントを成立させるのは難しい状況にはなっています。

ジー・アイ・ピー 菅 昔は情熱だけで突破できる場合があったんです。「どうしてもやりたいんだ!」と訴えると、賛同してくれる行政の方がいたんですね。今は組織が縦割りで、担当者も数年ごとに異動してしまうので説得が難しくなっていました。ARABAKI ROCK FEST.を国営みちのく杜の湖畔公園で初めて開催した時も、音楽が大好きな担当者の方がいらしたので突破できたんです。伊神 これは北海道編の時もお話しましたが、地方自治体と連動していくためには、コン

サートが生む経済波及効果をデータにして行政にアピールする必要がありますね。ACPCが全国組織であることを活かして、フェスだけではなく、全国のホールツアーやアリーナツアーのデータも用意するべきでしょう。基礎調査では、全国の会員社が手がける公演の総動員数は5千万人を超え、総売上は5千億円を超えているという結果が出ているわけですから、エリアに特化したデータが必要です。

その他「イベントが土日に集中していて、ツアーの宿泊に必要なホテル代が高騰している」(エドワード 門目／ノースロード 堀川)、「地方は人口減少・高齢化が進んでおり、チケット販売数に影響が出ている」(キョードー東北 田澤)、「席種によってチケット代に幅を持たせる柔軟性が必要」(ジー・アイ・ピー 福島)などの課題が挙げられた。

打ち上げの場所へ移動後は、担当業務ごとの、より本音をぶつけやすい席になり、制作担当者から「東京と大阪の予定が決まらないと、地方公演のスケジュールが切れず、いつもギリギリになってしまう」、デスク／チケット担当者からは「公演ごとに販売方法が多様になっている中、チケット業務は未だに人力頼りの部分が多く、デジタル化を進めてスタッフへの負荷やミスを減らしていきたい」との声が伊神副会長に届けられました。



今回の取材には、事務局から本誌担当の原裕一郎、田村華奈子に加えて、著作権担当の中村ゆきも同行。著作権業務の各社窓口となる方々と交流を深めました



打ち上げ会場は、東北各社がツアーの打ち上げでもお世話になっている「うさぎや」。人気の仙台セリ鍋、豆苗あさり炒めに続いて、シメは喫茶店のナポリタン。昨年11月には系列店「ひばりや」もオープン



タイ・バンコクにて 令和6年度ACPC海外研修実施

現地で体感した日本の音楽やフェス文化の可能性

2024年8月23～26日の4日間、タイ王国の首都バンコクにて「令和6年度ACPC海外研修」を実施し、全国の会員社等から60名にご参加いただきました。

視察先のイベントは「SUMMER SONIC Bangkok 2024」。日本のサマソニが待望の海外進出ということで、会場のIMPACT Challenger Hallにはタイ国内のみならず、日本を含むアジア各国から多くの観客が訪れていました。

メインステージ(MEGA STAGE)には、地元タイや欧米・韓国の人気アーティストのほか、日本からPSYCHIC FEVER from EXILE TRIBE, Travis Japan, BABYMETAL, SARUKANI, YOASOBI(出演順)が出演。

タイ語を交えながら観客とコミュニケーションを取る姿や、人気曲を日本語の歌詞で大合唱する光景が印象的でした。

またステージの他にも、タイらしい屋台風のフェス飯、衣類や小物の販売、コスプレ体験やマッサージなど多彩なブースが出店されており、音楽だけでなくフードやファッションといった様々な文化に触れられる場になっていました。

アーティストや楽曲だけでなく、日本型のフェスという文化やスタイル、音楽の楽しみ方を輸出する試みに、ライブ・エンタテインメント産業の大きな可能性を感じる研修となりました。



会場はバンコク郊外の大規模展示ホール



「SUMMER SONIC Bangkok 2024」エントランス周辺



観客の熱気があふれるMEGA STAGE



飲食・物販・企業PRブースも充実

海外研修参加者の声

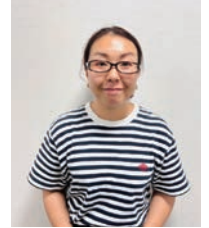
海外だからこそできた貴重な体験 学びのある有意義な視察

各国でできそうな「日帰り都市型フェス」

当日の会場ではタイ人の来場者だけでなく日本語もちらほら聞こえており、それ以外にも他国からの来場者と思いき人も多々見受けられた。

複数国のアーティストが出演する中でも、特に各国独自の音楽性を貫いているアーティストが大きく盛り上がっていた。日本開催でも同様だが、韓国出身なら韓国らしい、北欧出身なら北欧らしいステージを、タイの来場者も見に来ているのだと感じた。

「日帰りができる都市型フェス」のかたちは国が変わっても同様で、タイだけでなく、さらにまた他国での開催の可能性を感じられた。



ウィンテージョロック 工藤薫

日本文化の海外での人気を再認識

今回、タイが国を挙げて開催したサマーソニックだったが“日本のフェスをタイに持ち込む”というよりも“日本のカルチャーをタイに持ち込む”という印象が強かった。

会場内にあるプリクラやアーケードゲームで楽しんだり、YOASOBIが盛り上がるお客さんを見て、日本文化の海外での人気を再認識した。

また、お金をチャージして飲食や物販で使えるリストバンドが導入されているなど、日本のフェスでは経験したことがないこともあったので学びのある有意義な視察となった。



キョードー大坂 中原澄人

日本発フェスの進出から広がるチャンス

幕張メッセを彷彿とさせる会場で目を引いたのは、巨大な3面LED。更に花道、センターステージ、レーザーなどによりシーンが切り替えられ、飽きない演出がされていました。オーディエンスの熱量は高く、マナーの悪い方も特に見られなかったです。

日本のアーティストが海外で活躍する姿を見て、エンタメ業界に従事する身として非常に誇らしく思いました。国内アーティストの海外フェス出演が増える昨今、日本発フェスが海外で開催されることで、海外フェスへの出演チャンスが増えると考えられるので、さらなるエリア拡大に期待しております。

今後も、関係各社の皆様と共に最新のエンタメに触れ、コミュニケーションが取れる機会を定期的に開催していただけたら嬉しいです。



ゴニーキャニオン 古川嗣久



韓国 MCIAC との間で、 協力関係の構築に向けた MOU を締結

アジアのライブ・エンタテインメントの持続的成長へ向けて

2024年9月24日から26日の3日間、韓国・ソウルにて「MU:CON2024」が開催されました。韓国コンテンツ振興院が主催する同イベントでは、各国から音楽関係者が集い、世界の音楽産業に関するトークセッションやビジネスマッチング等が行われ、ACPCからは清水直樹常務理事、長井延裕常務理事らが参加しました。

ACPCは韓国大衆音楽公演産業協会(MCIAC)と合同で、「韓国と日本の大衆音楽公演事業の現状」と題したスペシャルセッションを開催し、両国におけるJ-POPとK-POPのライブ市場の状況や、気候変動による課題等についての意見交換を行いました。

ACPCとMCIACとの間で、音楽コンサート産業の発展に向けた交流を活性化するための協力関係を構築することを目的とした、MOU(基本合意書、了解覚書)の締結式を行いました。

ACPCを代表して清水常務理事と長井常務

理事が出席し、MOU締結に際して長井常務理事は「両国間でアーティストのみならず技術スタッフ、音楽ファンの往来が飛躍的に増加するなか、安全基準のノウハウ共有など解決すべき共通課題がある。音楽ファンの信頼を損なわず、両国、アジアの文化芸術ライブ・エンタテインメントの持続的成長をはかるべく両協会の連携を深めたい」と、具体的な連携に向けた考えを伝えました。

MCIACのイ・ジョンヒョン会長は、「世界の音楽市場として米国に次いで大きい日本であるだけに、ACPCとの業務協約は海外音楽産業発展に貢献できる大きな契機になるだろう。MCIACは新生団体だが、ACPCが成し遂げた多くの成果を参考に海外音楽産業全般に貢献できるよう努力し、2025年の韓日国交正常化60周年を前に、共に発展を図りたい」と期待を表明し、両者は固い握手を交わしました。

韓国大衆音楽公演産業協会 (MCIAC)

韓国のコンサートやフェスティバルを制作する45社で構成され、コロナ禍を経て2021年に発足した社団法人。



締結されたMOUを手にしたイ・ジョンヒョンMCIAC会長と長井延裕ACPC常務理事。締結式には清水直樹ACPC常務理事も出席

締結したMOUの内容(抜粋)

Article 1 (Purpose)

The purpose of this MOU is to create a cooperative relationship aimed at activating the exchange for the development of the music concert industry through mutually organic business collaboration.

Article 2 (Areas of Cooperation)

MCIAC and ACPC will mutually agree to exchange and collaborate on the following matters to maximize the utilization of their respective capabilities and resources for mutual benefits:

- (a) Exchange and collaborate on publications, reports, seminars, and other materials related to the music concert industry.
- (b) Exchange and collaborate on statistics and content materials related to the music concert industry.
- (c) Exchange and collaborate on information regarding copyright issues related to the use of musical works.
- (d) Exchange and collaborate on information regarding counterfeit and fraudulent tickets transactions, to the extent that such information can be disclosed publicly as needed.
- (e) Exchange and collaborate on material and human resources when needed for various organized concerts and events organized by MCIAC or ACPC.
- (f) The necessary details are determined separately through mutual consultation.

【参考：日本語訳版】

第1条(目的)

本MOUは、相互に有機的な連携を行うことを通じて、音楽コンサート産業の発展に向けた交流を活性化するための協力関係を構築することを目的とする。

第2条(協力分野)

MCIACとACPCは、相互の利益のためにそれぞれの能力と資源を最大限に活用し、次の事項について情報交換及び連携を行うことに合意する。

- (a) 音楽コンサート産業に関する出版物やレポート、セミナー、その他の資料について、情報交換及び連携を行う。
- (b) 音楽コンサート産業に関する統計やコンテンツの資料について、情報交換及び連携を行う。
- (c) 音楽作品の利用に際しての著作権に関する問題について、情報交換及び連携を行う。
- (d) 偽造チケットや不正なチケットの取引について、必要に応じて公開できる範囲内で、情報交換及び連携を行う。
- (e) MCIACまたはACPCが主催する各種コンサートやイベントにおいて、必要に応じて物資や人員の交流及び連携を行う。
- (f) 詳細については、別途協議を行い決定する。

ECSAの連載ページ「ECSA Lounge」では、新設スタジアム・アリーナを中心に、どのように集客や地域貢献等の施策を行っているか、ECSAの構成因子となる「スポーツ」・「エンタテインメント」・「地域活性化」それぞれの視座を通して“俯瞰”していきます。

ECSA REPORT

令和5年度「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」選定拠点表彰式参加報告

去る8月21日に、スポーツ庁及び経済産業省による令和5年度「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」選定拠点表彰式が横浜 BUNTAIのプレミアムラウンジで実施され、昨年に引き続きECSAも参加しました。

ECSAとして関わりのある施設も選出された今回の表彰式では、スタジアム・アリーナを起点にした人流の創出や、催事が無い時も施設自体へ住民が足を運びやすくする工夫、またスポーツはもちろん、エンタテインメント事業をはじめとした多様なコンテンツによる稼働率の向上等の施策が、それぞれの地域特性に合わせて計画されていることが印象的で、今後、各施設が地域で及ぼす、スポーツ

振興・人流創出・経済効果等波及効果には、大きな期待が寄せられています。会場となった横浜 BUNTAIは、令和2年度の選定拠点でもあり、今年4月に開業を迎えた施設を、参加者が実際に見て・感じ・知る貴重な機会にもなりました。ECSAとしても新規施設からの情報提供等、業界内のネットワーキング機会の創出に尽力していきます。



令和5年度「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」選定拠点

川崎新アリーナ（仮称） 長崎スタジアムシティ
等々力緑地 球技専用スタジアム、新とどろきアリーナ



（左より）川崎新アリーナ（仮称）のDeNA元沢伸夫開発室室長／長崎スタジアムシティのリージョナルクリエーション長崎 岩下英樹代表取締役社長／等々力緑地 球技専用スタジアム、新とどろきアリーナの川崎とどろきパーク 百々海大副本部長

スポーツ庁 Web 広報マガジン DEPORTARE
令和5年度「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」選定拠点表彰式を開催



ECSAに関するお問合せはこちらより
ECSA事務局：



ライブ・エンタテインメント EXPOではECSA提供のカンファレンスが行われました。

2024年7月4日 東京ビッグサイト

「最新アリーナで叶える新しいライブ・エンタテインメント」



（写真左より）田村剛 Kアリーナマネジメント代表取締役社長 佐藤希 Kアリーナマネジメント営業部部长 田山順一 ACPC 常務理事／ECSA プロジェクトマネージャー

音楽特化型アリーナが目指す「新しい当たり前」

田山常務理事よりECSA、ACPC、それぞれの団体概要の説明があり、続いて「音楽特化型アリーナ【Kアリーナ横浜】の開業と今後のライブ・エンタテインメント会場のあり方」をテーマにカンファレンスがスタート。Kアリーナ横浜は、100%民間運営の「音楽を楽しむこと」に特化した施設で、「昨年の稼働率は80%、今年6月の段階で約140万人来場、年末にはおそらく世界一集客した音楽アリーナになる見込みです」と田村社長。佐藤部長からは音楽ライブに必要なステージ設備が整った2万2000人収容の世界最大級のアリーナであることや、飲食も楽しめるアリーナがコンセプトで、売店が11ヶ所設置され、複数のラウンジも用意してあるなど、6つのセールスポイントが説明されました。ライブ主催者へのヒアリング調査で、物販販売テントの設営が大変だとわかり、常設テントを用意してグッズ販売できる環境を新たに提供するなど、会場設備は開

業後もアップデートされているそうです。

後半は、規制の厳しいみなどみらい地区ならではの工夫や、横浜駅から会場までの観客の動線が苦勞した点など、田山常務理事からの質問にお二人が答える形で進行了。田村社長は「Kアリーナには私どもが想像していない使われ方がまだあると思います。皆さんから新しいライブ・エンタテインメントのアイデアをいただき、私達も努力を続けたいですね」と発言。佐藤部長は「音楽業界や会場運営の方々から多くのアドバイスをいただき感謝しております。今後も日本の音楽業界をさらに盛り上げられるよう、新しいミュージック・エンタテインメントの当たり前を一緒につくり上げることができればうれしいです」と語りました。最後に田山常務理事が「コンサート会場に一人でも多くの人に足を運んでもらえるよう、よりよい会場づくりと運営を目指して、業界を挙げて取り組んでいきましょう」と締め、カンファレンスは終了しました。



フリーランス新法、2024年11月1日より施行

義務化される「取引の適正化」と「就業環境の整備」のポイント

法律の適用対象になるのは？

発注事業者とフリーランスとの間の「業務委託」に係る事業者間取引

発注事業者	フリーランスに業務委託する事業者で、従業員を使用するもの
フリーランス	業務委託の相手方である事業者で、従業員を使用しないもの

取引の適正化とは？

書面等による取引条件の明示
報酬支払期日の設定・期日内の支払い
法律に定める禁止行為をしてはならない

就業環境の整備とは？

募集情報の的確表示
育児介護等と業務の両立に対する配慮
ハラスメント対策に係る体制整備
中途解除等の事前予告・理由開示

2024年11月1日より、「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律」(フリーランス・事業者間取引適正化法等)が施行されます。

「フリーランス新法」とも呼ばれるこの法律は、働き方の多様化を背景に、フリーランスが安心して働ける環境を整備するため、発注事業者に「取引の適正化」や「就業環境の整備」を義務づけています。

【発注事業者の義務となる事項】

取引の適正化

① 書面等による取引条件の明示

：委託する業務の内容、報酬の額、支払期日等の取引条件を書面または電磁的方法（電子メール等）により明示すること。

② 報酬支払期日の設定・期日内の支払い

：発注した物品等を受け取った日や、役務の提供を受けた日から数えて60日以内の報酬支払期日を設定し、期日内に報酬を支払うこと。

③ 法律に定める禁止行為をしてはならない

：フリーランスに責任がないにもかかわらず、不当な受領拒否や報酬減額、返品、業務内容の変更・やり直し等を行わないこと。（1か月以上の業務委託が対象）

就業環境の整備

④ 募集情報の的確表示

：広告などにフリーランスの募集に関する情報を掲載する際は、虚偽の表示や誤解を生じさせる表示をせず、内容を正確かつ最新のものに保つこと。

⑤ 育児介護等と業務の両立に対する配慮

：フリーランスが育児や介護などと業務を両立できるよう、申し出に応じて必要な配慮を行うこと。（6か月以上の業務委託が対象）

⑥ ハラスメント対策に係る体制整備

：ハラスメントによりフリーランスの就業環境を害することがないように、相談対応のための体制整備などの措置を講じること。

⑦ 中途解除等の事前予告・理由開示

：継続的な業務委託を中途解除する場合や、更新を行わない場合は、原則として30日前までに予告すること。（6か月以上の業務委託が対象）

【参考】

公正取引委員会
「フリーランス法特設サイト」



帰ってきた

TALKING BLUES

Vol. 37



文：鏡 孝彦 ACPC 専務理事
(グリーンズコーポレーション代表取締役社長)

更新は楽しい事だけに…

この度の令和6年9月能登豪雨でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りいたします。また、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。何で1年も経たない内に同じところで自然災害が起こってしまうのか…。私達 ACPC も微力ながら行ってきた支援を継続していきたいと思っております。皆様、宜しくお願ひします。

今年は、「異常気象」、「十年に一度」、「数十年に一度」という言葉を繰り返し聞きました。その一つの台風10号。当初は、近畿地方直撃！で通り過ぎるかと思ったら訳分からん動きで離れた地域にも影響・被害を及ぼし、そのせいで弊社の「RUSH BALL」は、史上初めて全面中止という事にせざるをえなくなりました。ほんまに悔しい。異常気象は、地球温暖化が要因と言われていますが、最高気温毎年更新！てな事になるかも

しれません。

更新は、楽しい事や素晴らしい記録や記憶にして欲しいですね。大谷さん。54、59、310、130 + なんだかんだでリーグ10冠！ 凄いですね～。そして。まもなく、ディビジョンシリーズ！ このコラムが読まれる頃には、ワールドシリーズも終わって世界一?? いろんな事、更新して欲しいです。

今号の会長対談で「MUSIC AWARDS JAPAN」に触れていると思います。今年も様々なアーティストの方達の楽曲・パフォーマンスに皆様も接してこられたと思います。心動かされる楽曲、力をくれるステージの数々、日本の表現者の方々の素晴らしさを世界の皆さんに伝えていきましょう！ そしてライブスペースの数々も紹介出来ると良いですね。原くん、日本で一番歴史を更新していつてるライブハウスって、何処なんやろ？

▶ ACPC 基礎調査 2024 年上半期 結果報告

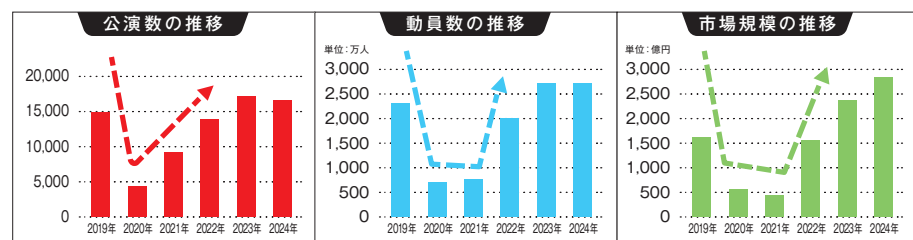
ACPCでは全国の正会員社を対象に、ライブ・エンタテインメント市場の調査を実施しています。この調査報告は1989年より始まり、コンサートプロモーターの事業活動およびライブ市場の動向をデータ化した国内唯一の資料として、調査を重ねて参りました。

このたび、2024年上半期の調査データを発表いたしました。

※ ACPC正会員社が調査対象のため、日本全体のライブ市場データとは異なります

《基礎調査サマリー》 調査対象期間 2024年1月1日～6月30日

項目	数値	前年からの増減	前年比	2019年同期比
会員社数	75社	1減	—	11増6減
総公演数	16,104本	-271	98.3%	107.7%
総動員数	27,292,658人	-59,905	99.8%	121.3%
市場規模	2840億6571万円	+451億0537万円	118.9%	180.5%



《2024年上半期の市場概況》

公演数および動員数は前年上半期から横ばいだが、市場規模は前年同期比118.9%に拡大している。全体での公演数・動員数・市場規模は、いずれもコロナ前の2019年上半期を上回った。しかし公演数と動員数がいずれもコロナ前を上回った地域は、関東・東海・近畿・九州沖縄の4地域に限られ、それ以外の地域ではなおもコロナ前の水準には至っていない。

※詳細はACPCのホームページにて掲載いたします。



▲ACPCのホームページ

▶ 新規加盟社紹介

■ 賛助会員

2024年9月入会 箕面市立文化芸能劇場

※2024年10月時点の会員数は正会員75社、賛助会員133社です。

一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 行動規範

当会ならびに当会会員社は、自らの公共的使命と社会的責任を常に認識し、音楽コンサートを中心としたライブ・エンタテインメント事業活動を通じて、国民の皆さまに生きる喜びと元気を提供し心豊かな生活に貢献するとともに、我が国の文化芸術、エンタテインメント産業の発展に寄与することを活動の基本方針としております。

その活動方針に基づき、以下の通り行動規範を定めます。いつも心に響く音楽が社会に満ち溢れますように。

- 1 お客様に上質なライブ・エンタテインメントをお届けし、豊かな文化の創造に貢献します。
- 2 コンプライアンスを徹底し、公正中立な団体活動を通じて社会的責任を果たします。
- 3 人権を尊重し、人種や性別、宗教、政治的見解、国籍、社会的地位、出身などに基づく一切の差別を行いません。
- 4 違法行為や反社会的行為に関与しないよう良識のある行動に努め、反社会的勢力を排除します。
- 5 あらゆる形態の強制労働を排除します。また、差別的な言動、暴力行為、セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントなどを禁止し、法定の基準を遵守します。

上記は2022年11月14日に開催した理事会にて定められた、ACPCの団体行動規範です。

▶ 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 団体概要

コンサートプロモーターズ協会 (ACPC)は、音楽を中心としたライブ・エンタテインメントを主催する、全国のプロモーターで構成される一般社団法人です。ライブ・エンタテインメント産業のさらなる発展を目的として、各種の公共事業を実施しています。

当協会は、「社団法人全国コンサートツアー事業者協会」として1990年、コンサート事業者の産業的基盤の確立と、音楽産業の健全な発展に寄与することを目的に設立されました。2011年4月1日付で一般社団法人に移行し、協会名称を現在の「コンサートプロモーターズ協会」に改めました。

2012年以降は様々な諸問題に取り組むなか、会場不足問題を契機にライブ・エンタテインメント議員連盟が設立され、2018年にはチケット不正転売禁止法の成立に至りました。

2019年には「スポーツ界×音楽界」のタグとして、日本トップリーグ連携機構と当協会と新団体の Entertainment Committee for STADIUM・ARENA (ECSA)を設立し、より良いスタジアム・アリーナ環境の整備をめざしています。

2020年以降のコロナ禍では、公演の再開と事業者の支援を目的として国・関係省庁・行政・自治体と協議を行うほか、「音楽コンサートにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」の策定、音楽関連団体と連携した「Music Cross Aid」基金の創設、ワクチン職域接種、共同声明の発表などを行っています。

ACPCの団体内組織として、本会加盟正会員の招聘プロモーター10社による協力組織、インターナショナル・プロモーターズ・アライアンス・ジャパン (IPAJ)を2021年に設立。2022年には関西エリアの正会員を中心としたACPC関西支部会を設立しました。

【事業概要】

- ① [ライブ・エンタテインメント事業に関する調査・研究](#)
- ② [ライブ・エンタテインメント事業に関する研修会・セミナー等の開催](#)
- ③ [ライブ・エンタテインメント事業に関する教育及び就職支援事業](#)
- ④ [ライブ・エンタテインメント事業に関する情報の収集及び提供](#)
- ⑤ [ライブ・エンタテインメント事業に関する内外関係機関等との交流及び協力](#)
- ⑥ [ライブ・エンタテインメント事業に関する知的財産権の維持・管理及び保全](#)
- ⑦ [ライブ・エンタテインメント事業に関する音楽著作物の使用許諾申請及び楽曲報告等の手続代行業務](#)
- ⑧ [ライブ・エンタテインメント事業に関する苦情処理及び相談](#)
- ⑨ [ライブ・エンタテインメント事業に関する各種代行業務](#)
- ⑩ [その他この法人の目的を達成するために必要な事業](#)

▶ コンサートプロモーターズ協会 正会員一覧

北海道

(株)ウエス / (株)キョードー札幌 / (株)道新文化事業社 /
(株)トラスト企画クリエート / (株)マウントアライブ / (株)ミュージックファン

東北

(株)エドワードライブエンターテインメント / (株)キョードー東北 /
(株)ギルドネクスト / (株)ジー・アイ・ピー / (株)ノースロード・ミュージック

関東

(株)アイエス / (株)アリノウ。 / (有) ヴィンテージロック / (株)ウドー音楽事務所 /
(株)エアフラッグ / エイベックス・ライブ・クリエイティブ(株) / (株)エニー /
(株)エル・ディー・アンド・ケイ / (株)オデッセー / オフィス・ゲンキ (株) / (株)キャピタルヴィレッジ /
(株)キョードー東京 / (株)キョードー横浜 / (株)クリエイティブマンプロダクション / (株)グリーンルーム /
(株)サンライズプロモーション東京 / (株)スペースシャワーネットワーク / (株)スマッシュ /
全栄企画(株) / (株)ソーゴー東京 / (株)チッタワークス / (株)ディスクガレージ / (株)テレビ朝日 /
(株)ネクストロード・プロダクション / (株)バックステージプロジェクト /
(株)ハヤシインターナショナルプロモーションズ (HIP) / (株)バンダイナムコムミュージックライブ /
(株)フジテレビジョン / (株)プロマックス / (株)文化放送開発センター /
(株)ホットスタッフ・プロモーション / (株)ポニーキャニオン / (株)ミュージックリーグ /
(株)モストプランニング / (株)ヤング・コミュニケーション / (株)ライブエグザム /
Live Nation Japan (同) / (株)LIVE FORWARD / ライブマスターズ(株) / (株)Lucky FM 茨城放送

北陸・甲信越

(有)エフ・オー・ビー企画 / (株)キョードー北陸 / (株)サウンド・ソニック / (株)スーパーキャスト

中部

(株)キョードー東海 / (株)サンデーフォークプロモーション / (株)ジェイルハウス

関西

(株)梅田芸術劇場 / (株)キョードー大阪 / (株)グリーンズコーポレーション /
(株)サウンドクリエーター / (株)清水音泉 / (株)ソーゴー大阪 /
(株)ナウ ウエスト ワン / (株)阪神コンテンツリンク / (株)ページ・ワン

中国・四国

(株)キャンディープロモーション / (株)デューク / (株)ユニオン音楽事務所 / (株)夢番地

九州・沖縄

(株)GAKUON ユニティ・フェイス / (株)キョードー西日本 /
(株)ピーエムエージェンシー / (株)ビッグイヤーアーツ (BEA)

A.C.P.C. navi Vol.53 2024年10月発行

発行人：中西健夫 / 編集人：今泉裕人 / 編集：ACPC事務局 / デザイン：嘉手川里恵 / 取材・構成：君塚太、布施菜子
発行所：一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-21-18 恵比寿南ビル
TEL.03-5768-1731 FAX.03-5768-1732